

# 専門図書館探訪

Library Report

東京都 台東区



## 交通経済研究所資料室

### DATA

開館 1946年5月(改修2022年3月)  
 構造形式 鉄筋コンクリート造  
 延床面積 260m<sup>2</sup>  
 開館時間 10:00~16:30(受付は16:00まで)  
 休館日 土曜・日曜・祝日/年末年始  
 所在地 東京都台東区上野7-1-1(資料室は地下1階)



## 資料室の総合的なリノベーション

一般財団法人交通経済研究所は1946年に「産・官・学の連携により、交通を通じて社会発展に寄与する」ことを目的に設立された交通経済・経営の民間シンクタンクで、3つの事業を展開している。

- 1) 調査・研究事業
- 2) 情報サービス事業
- 3) 日本交通学会事務局

交通経済研究所資料室は2)情報サービス事業の一環を担っており、鉄道を中心とする国内外の資料を収集・保管する交通経済・経営分野の専門図書館である。資料室は信濃町と上野にあり、信濃町は最新の資料を備え、利用は研究所職員や交通関係企業(賛助会員など)の社員に限定されるが、上野はアーカイブ資料が中心で一般の利用者にも公開されている。

蔵書は図書が約4万冊、うち約8割が交通関係でその中心は鉄道関連図書である。英語、ドイツ語、フランス語、中国語など外国語の交通関連の図書を約6,500冊所蔵していることも大きな特徴で、他では得られない情報を得ることができる。雑誌は約500タイトル(約5万冊)あり、イギリスの『Railway Gazette International』(1835年創刊)など歴史と伝統のある鉄道雑誌も含まれている。

### リノベーションで開架、閲覧席を拡大

日本の鉄道開業150周年にあたる2022年、資料室は利用を促進すべく大規模な改修を行った。上野の資料室では壁や床の改修、書架・展示架の設置、閲覧机・椅子・カウンターの交換などを実施。それにより、以前はすべて閉架書庫にあった資料の一部を開架扱いにすることが



改修前 A 壁面に設置してあったキャビネットを撤去し、展示架や書架を設置した(改修後の写真はP5)。壁を塗り替え、床をカーペット敷きにしたことで空間全体が明るくなった。  
 B 改修前の資料室。 C ハイカウンターにすることで、事務スペースとの区切りにもなった。カーペットのデザインも変えている。

できた。交通経済研究所が発行する月刊誌『運輸と経済』などの雑誌は表紙を見せる面展示にし、代表的な蔵書の一部を集約して展示配架した。特に興味をひく旧国鉄関連、JR関連、民間の鉄道会社、全国の鉄道会社の組織史、年史などは項目ごとに配架され、利用者が資料を手にとって内容を確認められるようになった。改修によりゆったりとしたスペースが確保でき、2席だった閲覧席も8席に増えた。サービスカウンターは事務スペースとの仕切りとなる高さ、サイズにした。

閉架書庫の日本ファイリング製単柱式書架は資料室が上野に移設された1987年当時から使用されているものもあるが、今回はスペースを最大限に活用し、書架を増設した。前述の通り国内外の珍しい図書や雑誌が配架されている。古くは1930~40年代の図書、昭和初期(1920年代~)からの鉄道に関する統計年報、旧国鉄時代の1950年頃からの、JRが発足した1987年以降の時刻表なども収蔵されている。

### 貴重な資料とリノベーション

資料室にとっては貴重な資料の修復も重要な課題だ。背表紙や本文紙が経年劣化で相当に傷んだ<sup>ほんもんし</sup>図書を日本ファイリングに依頼して順次、修復を進めている。この資料室にしかない図書が再び手に取って読める状態に甦ることの意義は大きい。必要に応じて酸性紙図書の大量脱酸処理(DAE法)も行われている。長年にわたる信頼関係に基づき、改修や資料の修復全般をワンストップでサポートしている。

資料室の利用者は交通経済研究所の職員、交通関係企業(賛助会員など)の社員や大学の研究者などが大半だが、ホームページや「蔵書オンライン検索」もリニューアルされ、閲覧希望(予約制)や資料に関する問い合わせなどもここから行うことができる。資料室の改修や資料そのものの修復により、今後は広く一般の利用者にも活用されることが期待される。



D 閉架書庫には分類された図書が整然と並ぶ。 E 修復前の貴重書。 F 修復後の貴重書。